

令和8（2026）年度4月「歳時記」

4月は、春の光がいっそう柔らかく降りそそぎ、自然の息吹が満ちてくる季節です。上旬には二十四節気の「清明」を迎えます。草木は芽を伸ばし、花々は色を深め、万物が清らかに明るさを帯びてきます。新年度の始まりとも重なり、地域や学校・園・所には新しい出会いと希望が広がります。中旬から下旬は「穀雨」。穀物を育む恵みの雨が大地を潤します。この雨は、田畑の準備を整えるだけでなく、人々の暮らしにも静かな落ち着きをもたらすものです。また、23日は「こども読書の日」とされ、読書を通して子どもたちの想像力や学びを育む取り組みが全国で行われます。春の光と雨に包まれながら、新しい季節の歩みを確かめる月です。

さて、今年度の歳時記は、過去に公立高校入試で取り上げられた古典作品を紹介していきます。中学生の皆さんには高校入試を意識しながら読むと、さらに学力の向上にも繋がるでしょう。今年度第一回は、「こども読書の日」にちなんで文学作品づくりを考える文章です。

<古文>

吾が師常によみ出でらるる歌、いと遅吟にして、人の許にゆきて、そのむしろにのぞみてよまるる歌も、ある時はけふはよみ得ぬなりとて、ひめもす考へられたるままにて、空しく帰らるる事度々なりき。文詞なども、筆とられてより、幾度か稿をかへて、なほ心に落ちぬほどは、そのまま厨子のうちに巻き入れおかれて、心のおもむけるをりとう出でては、消し補ひなどせられし事常なり。さればみづから許して、清書せらるるに及びては、誤れる事をさをさなかりしなり。荒木田久老神主は、その心掟おほいに異にして、早吟なるのみならず、序文など人に乞はれて物せらるるをりなども、筆をとりて紙に対へば、詞腸たちまちに動くとして、案をも設けず、ただちに筆を下されしとぞ。秀才なる事はほめ聞こゆべき事なれど、さればこそその文詞、ともすれば考へたらぬ事のうち交じるをりありき。又余りに筆の走るに任せられて、深く課替えらるるまではなかりし事も有りしとぞ。今いづれをかよしといはん。

<口語（現代語）訳>

私の師は、いつも歌を詠むときとてもゆっくり吟味して作られる方で、人の家に行ってもその席で歌を求められても、「今日はよむことができないのだ」と言っていて、一日中考えたまま、結局何も詠まずに帰ることが何度もあった。文章を書くときも、筆を取ってから何度も草稿を書き直し、それでも納得できないうちは、そのまま戸棚の中に巻いてしまっておき、心が向いたときに取り出しては書き消しや補いをされるのが常であった。だから、自分で納得して清書される段階になると、誤りなどはほとんどなかったのである。

これに対して荒木田久老神主は、その心構えが大いに違っていて、歌も早く詠むだけでなく、序文などを人に頼まれてお書きになるときなども、筆を取って紙に向かえば、詩をつくる心がたちまち湧き出ると言っていて、下書きもせずにそのまま書き始めたという。才能が優れていることはおほめするべきだが、そのために、文章の中に時々考えが足りないところが混じることもあった。また、あまり筆の勢いに任せて書くので、深く推敲されないままになっていることもあったという。

さて、今どちらが良いと言えるのだろうか。

江戸時代後期に書かれた「泊活筆話」からの出典です。知識人の視点から日常・文化・学問などを記したものと考えられます。「泊活」は琵琶湖の古称「細波」に通じ、風雅な題名が付けられています。筆者の清水浜臣は国学者であり文筆にも優れ、当時の見聞や考察をまとめた随筆がいくつか残されています。

さて、あなたはどんなふうに作品を作りますか。筆者の先生のように「じっくり推敲して作品を仕上げる」タイプですか。それとも、荒木田久老神主のように「即興的に書き進める」タイプでしょうか。それぞれ長所も短所もあり、どちらが良いとは一概に言えない、と筆者は書いています。というか、私のように文才のない者にとっては、作品が書けるというだけで、どちらも素晴らしいと思うのですが…。

それでは練習問題です。皆さんぜひチャレンジしてみてください。

＜問題＞

問1 本文中で「吾が師」が歌を詠むときの様子として最も適切なものを、次の中から一つ選びましょう。

ア おもいつくままにすぐ詠み、推敲はほとんどしない。

イ 序文だけは早く書か、歌は推敲しない。

ウ 人前では早く詠むが、家では全く詠まない。

エ ゆっくり考え、納得できるまで何度も推敲する。

問2 「ひめもす考へられたるままにて、空しく帰らるる事度々なりき」とありますが、ここでの「ひめもす」の意味を書きましょう。

問3 本文では、吾が師と荒木田久老神主の創作態度が対照的に描かれています。荒木田久老神主の特徴として正しいものを次の中から選びましょう。

ア 案を立てず、筆を取るとすぐに文が湧き出るように書く。

イ 歌は遅いが、序文だけは早く書く。

ウ 慎重で、清書までに多くの時間をかける。

エ 推敲を重ねるため、誤りがほとんどない。

問4 「今いつれをかよしといはん。」の意味を書きましょう。

＜解答例＞

問1 エ 問2 一日中 問3 ア

問4 今どちらが良いと言えるのだろうか。